

2017 愛顔つなぐえひめ国体



第72回国民体育大会

君は風 いしづちを駆け 瀬戸に舞え



TEAM FUKUOKA

「チーム福岡」福岡県選手団サポートニュース

NEWS

10月3日 Vol.2

第72回国民体育大会
8位以内入賞に向け躍進中！！



いしづちを駆け抜けた男たち

～自転車競技男子4kmチーム・パーシュート～

1日(日)、松山市松山中央公園多目的競技場で、自転車競技男子4kmチームパーシュート予選が実施された。今村、橋本、原井(いずれも中央大学)、兒島(祐誠高等学校)の4選手が出場。大会記録を約4秒も更新する圧巻の走りで堂々の「1、2位決定戦」に進出した。周回ごとのタイムがアナウンスされるたびに、観客の声援がどんどん大きくなり、会場の熱気が一気に高まった。ゴール後の会場は、観客の割れんばかりの大きな拍手に包まれた。

翌日2日(月)、富山との1、2位決定戦、更に大会記録を更新し見事優勝を果たした。昨日、競技を終えた選手に入念なマッサージなど施しコンディショニング調整にあたっていたトレーナーの江上沙織氏を含めた県自転車競技連盟の「チームの勝利」と言える。



バスケットボール競技少年男子 ドリームチームで準決勝へ

2日(月)、鬼北総合公園体育館で、バスケットボール競技の2回戦が行われた。少年男子は、今年インターハイを制した福大大濠高校と、昨年のインターハイを制した福岡第一高校からの選抜されたドリームチームを結成、監督も元U16男子監督を務めた福岡第一高校の井手口氏と、全国を制した福大大濠高校の片

峯氏がタッグを組んだ。まさしく日本一を目指すためのチーム福岡となった。

茨城を相手に、全員出場で勝利(101対82)し、ベスト4進出を決めた。しかし、試合後すぐに、井手口監督から選手達に、試合の反省点を厳しい口調で伝える場面もあり、勝利の後にも手を緩めない姿は、優勝しか目指していない様子が伝わってきた。(写真左)インターハイを制した2校からなる「チーム福岡」が、明日の試合で躍動するのは、間違いなし！



サッカー競技女子 惜しくも敗戦

2日(月)サッカー競技女子1回戦岡山との試合が愛南市あけぼのグラウンドで行われた。昨日から降り続く雨による悪コンディションの中、前半1点のリードを許した。後半の流れは福岡にあったが、相手のキーパーの堅い守備で得点ならず惜敗した。

試合後、高倉監督は「シミュレーションや相手の分析は出来ていたが、チャンスを生かしきれなかった。来年は必ず勝つ。」とコメントしてくれた。



ベンチマークすべき「北海道」を次々と撃破！

1日（日）に行われたテニス競技成年女子1回戦、ソフトボール競技少年女子1回戦、剣道競技少年男子2回戦では、総合成績争いでも8位以内入賞のライバルとなる相手、北海道との対戦となった。

テニス競技 成年女子



テニス競技成年女子は、園田綾乃選手がシングルス先勝、宮地真知香選手は敗れたものの、ダブルスで勝利を収めて2勝し、北海道に勝利した。

2人は「何としても入賞（ベスト8以内）したい。」と、意気込みを語った。今村克志監督も「この流れに乗りたい。」と、早くも明日のゲームを描いていた。翌日、2日（月）の2回戦は京都との対戦。0-2で惜しくも敗れた。



宮地選手(手前)
園田選手(奥)



宮地選手のサーブ



ソフトボール競技 少年女子



医科学サポートチーム

ソフトボール少年女子1回戦。1点を争う緊張感のあるゲーム展開が続く6回裏0-0。本県は、1死3塁から井上瑞樹選手が投手前に転がすと、3塁走者古園有紗選手が間一髪生還。この1点を守り切り、1-0でベスト8進出を決めた。準々決勝は3日（火）に行われる。

この勝利の陰には、山下明浩ドクターや中田浩一・野村幸司両トレーナーの医科学サポートチームの支えがあった。選手、監督、スタッフ全員で勝利を掴んでほしい。



指示を出す執行監督



剣道競技 瀬戸に舞った高校剣士！！

堂々の少年男子準優勝・少年女子3位入賞

剣道少年男子は、1回戦で山梨に勝利し、2回戦で北海道と対戦。先鋒中山、次鋒村上、中堅水田と3連勝、早々とベスト4進出を決めた。副将井上、大将百田の動きもよく、準決勝・決勝に向け、大きな期待がかかる。森監督は、「このチームは、とび抜けた選手はいない分、チャレンジ精神を前面に出して、明日戦いたい。」と、2日（日）に向けて熱く語っていた。

1, 2回戦を順調に勝ち上がった剣道少年男女の両チーム。女子は開催県愛媛と準決勝で対戦（0-4）。準決勝を勝ち上がった男子は、決勝で地元愛媛県と対戦（1-4）。ともに、残念な結果となったが、女子は長崎との3, 4位決定戦に勝利（3-2）し3位、男子は準優勝と、両チームで競技得点65点をもたらした。

瀬戸に舞った高校生剣士に大きな拍手を送りたい。



攻め込む次鋒村上選手



中央で指示を出す森監督



卓球競技 選手、監督そしてサポートチームとの戦い

9月30日(土)から宇和島市総合体育館で始まった卓球競技。3日目となった2日(月)、少年男子は、昨日の初戦で力のある岡山との戦いを、阿部悠人選手が5セット目までもつれながら勝利し、見事3-1で勝利した勢いそのままに、危なげない試合運びで準々決勝に駒を進め、ベスト8入りを決めた。少年女子は、愛知に0-2の劣勢から見事逆転し3勝目をあげた。明日3日(火)の東京に勝てば、ベスト4確定となる。逆転勝利を収めた岩越帆香選手も「今日は、0-2からの勝利でしたが、明日はしっかり勝ってメダルを確定させたいと思います!」と抱負を述べた。成年男子も広島と対戦し、5人目までもつれる激闘を上村慶哉選手が制し、2勝目をあげた。有力と思われた長野を破った広島からの勝利は大変価値のある勝利である。上村選手は、「明日の長野にしっかり勝ってベスト4進出し、優勝を目指したい!」と、力強く語ってくれた。成年女子は、粘りを見せたが惜しくも2-3で岐阜に敗れたが、「明日の1次リーグ最終戦を勝って終わりたい!」と、中澤紬選手が勝利への執念をコメントしてくれた。



今回、卓球競技選手団に県立スポーツ科学情報センターより「映像サポートチーム」を派遣している。卓球競技において、最も重要となるサーブレシーブ。ターゲットとなる選手についてのサーブレシーブの分析を行い、次戦に向けての戦略会議を行なった。映像サポートの他、医・科学サポートの皆さんを含めた「チーム福岡」の力も大きな力となっている。今日も愛媛県各地を飛び回り活動されているサポートチームに心から感謝し、福岡県からも応援を続けていきたい。

Team 福岡の現在状況と今後の展望

10月2日(月)現在、福岡県は、会期前終了時の16位から大幅に順位を上げ、8位に浮上した。注目すべきは、8位以内入賞に向けて、競合が予想される兵庫県と京都府を抑えることができた点である。この躍進の大きな要因として、昨年度出場できなかった剣道少年女子で3位入賞を果たしたことが挙げられる。また、来年度の開催県である、福井県が13位と順位を上げており、現在19位の千葉県とともに警戒が必要である。現在開催中のバスケットでは、成年男子、少年男子共に準決勝に進出している。依然として4位を維持している北海道を視野に入れるべく、活躍に期待したい。

男女総合成績(天皇杯) 10月2日終了現在

順位	都道府県名	得点	昨年度順位
1位	東京	1026	1位
2位	神奈川	820.5	8位
3位	愛媛	763.5	7位
4位	北海道	739	9位
5位	長野	726	19位
6位	埼玉	720.5	3位
7位	大阪	654.5	6位
8位	福岡	579	13位
9位	愛知	548	4位
10位	秋田	540	37位
11位	岩手	531	2位
12位	兵庫	508.5	11位
13位	福井	499.5	18位
14位	新潟	496	17位
15位	岐阜	487.5	10位
16位	京都	483	12位

【各競技入賞者】 (10月2日終了時点)

競技名	種目	名前	所属	順位
剣道	少年男子	中山・村上・水田 井上・百田		2位
	少年女子	権井・天津・小川 妹尾・山崎		3位
なぎなた	少年女子演技	櫻井・西守		7位
	成年女子演技	世利・田中		6位
自転車	男子4kmチーム・パーシュート	今村・橋本 原井・兒島		優勝
	女子チーム・スプリント	児玉・平井		2位
ライフル射撃	成年男子10mエア・ピストル(60発)	出西 秀朗	福岡県ライフル射撃協会	8位
	少年女子ビーム・ライフル立射(20発)	井浦 一希	東京都立足立新田高等学校	2位
ボウリング	少年女子個人	坂井 百望	久留米市立久留米商業高等学校	3位

国体の情報については、大会ホームページ (<http://www.ehimekokutai2017.jp/>) より、ご覧ください。

※Facebook においても情報発信を行っています。「ふくおかスポネット」で検索してご覧ください。

【発信元】福岡県立スポーツ科学情報センター スポーツ推進課 企画情報係